

114
A. 855
1



極秘

蝶報第百五號

明治三十三年九月廿二日

在北京

瀧川海軍中佐 報告

海軍軍令部第三局

清國皇帝の急激な改革の既ニ報告スル所ニ此等家
置ハ清人の憤激セシムル原動力トナリ遂ニ大政變ニ意起セリ在真
頭不達ニ

一大政變

清國皇帝の急激な性情當時急進派以テ稱シラルル果敢
譚嗣同等照康有為等ノ献言以テ深ク喜トシ漢等ノ言
慮ハ一トシテ用ラレタルトナリ至近ハ八旗兵廢止并髮截斷等
上諭迄出テ其國是トシテ密カニ日英米三國ト聯合シテ其
退化ニ圖ラント企テ此等ノ變ヲ漏レ聞カセリ滿州軍守回派

Vertical handwritten text on a separate piece of paper, likely a continuation or related document, written in cursive style.

ノ策士、或此に至る自己利益ヲ踏蹴セル。慮、密ニ謀ヲ擬シ、
現在ノ皇帝ノ康ニ謀。其謀主ト見ル。度親王ノ密使。コレ
自、本鴻章ニ通シタル。本鴻章、此謀ヲキテ同意セザリトス。然
レ波等策士、遂ニ西太后ヲ擁立シ、攝位セシメ、急遣派ノ諸子、俄
ニ廢制シ、現在ノ皇帝ニ讓位セシムトシ之。西太后ニ託シ、其同意
ヲ得テ、斯クシテ一日ニ至。一篇ノ上諭ハ、西太后ヲレテ、政ヲ辨セシム
ル實ニ、此ト同時ニ、是迄ノ政策ハ、全然掌ヲ翻ス。如ク一變、改革
派ノ志ヲ、深謀王康、諸子ハ、吾國ト云ル。匪各ノ下ニ送捕。三着
ヲ、コレ、滿洲軍中、統名、以、兵軍統領崇禮、如クハ、一急、此捕
縛ニ、盡碎。改革派諸子、此變、如ク、皆、急ニ身ヲ遁。テ、其跡ヲ
晦マセントシ、或、此湯湖、間ニ、皇帝ヲ、殺シ、出サント企ツルモ、一康有為
先ツ云フ。今ニ、其所、在ヲ、知ラス、同人、一康、私仁、同日ヲ、捕、ラ
ル。此日、康有為、張陰桓、家ニ、隱匿シ、居ルト、嫌疑、以、張陰桓

ハ家宅搜索ニ遇ヒ家財ヲ多クヲ破壊セラルニ至レリ同人宅ニ在リシ
戴某ナルモノ康有為ト見認ラレテ現ニ捕縛ニ遇ヘリト而シテ張陰桓
ハ昨今其職ヲ免セラルヘク王文韶亦其位置危フカルヘシト云フ斯ノ如
キ現況ナルヲ以テ宗廟又ターノ改革ヲ唱フルノ臣ナカルヘク一タニ端緒
ヲ得タル改革モ今ヤ總テ盡解ニ屬シ萬變休ス之レヨリ清國政府ハ
再ヒ元ノ如キ頑固ナル守旧主義ヲ執ルニ至ルヘク春來雨、如ク下リレ改
革上諭ニ對シテハ向後如何ニ處分スルヤ未タ知レハカラサレモ此間又々紛
擾ヲ生スルヲ恐クハ少ナカラサルヘシ今固變變ノ謀士タルモノ茲ニ指ヲ屈シ
ハ度親王崇禮ヲ始メ榮祿裕祿等ハ其主タルモノナルヘク思ハル又コレヨリ
官吏任免ノ變更モ多カルヘリ現ニ昨日御史宗伯魯ハ康有為等ヲ
庇護シタル康ニテ免職セラレ永久就官ヲ停止セラレタリ謠言ハ斯ル
際ニ生シ易ク皇帝崩御ノ風説ハ事ヲ坊間ニ喧傳セラル昨日皇帝
ノ上諭ハ左ノ如シ

上諭

現在國事艱難庶務理ヲ待ツ朕勤勞宵旰日ニ萬機ヲ綜統
業餘時ニ叢脞ヲ虞フ恭同治年間ニ溯リ以來慈禧端佑康頤昭
豫莊誠壽恭欽獻崇熙皇太后ニ向次簾ヲ垂レ政ヲ聽ク朝政ヲ
辦理シ時艱ヲ宏濟スル美ヲ盡シ善ヲ盡セルトナレ因テ宗社ヲ重
シト爲スヲ念ヒ再三慈恩ヲ額懇シ政訓仰蒙俯レテ請フ也如此
乃チ天下臣民ノ福タリ今日ヨリ始メテ復殿ニテリ変ヲ辨ス本月八日
三日朕諸王大臣ヲ率ヒ勤政殿ニ在リ行禮ス一功應ニ禮義ヲ行フ
各衙門ニ普シ敬謹豫備ス此ニ欽シ

追テ西太后ノ新政編領ハ明日ヨリ更ニ上諭トナリ祭布セルレニ答
ナリ本日皇太后禁城内外ヲ嚴肅ニ取締ル可キ上諭ヲ下レ各要
處ニ步軍統領衙門ヨリ兵勇ヲ派遣シ不虞ニ備ヘリ之レ全ク皇帝
ニ接近スルモノアルヲ防マケルニ外ナラス